

Y's Men International

YMI

WORLD



“To acknowledge the duty that accompanies every right”

Only for private distribution to members

YMI ワールド
2019-2020 No.4
日本語版



国際会長退任の辞「何という一年間だったことでしょう! / 次期国際会長から「私にも夢があります・・・」 / 新型コロナウイルス感染症についてのYMI 声明書 / マイクロストーリー: 太平洋南西区 (アメリカ) 「渚に寄せる波のように信念と連帯を植え付けて」、日本「92年間に駆け足で振り返って」 / 展望「韓国は感染症対策が万全」 / 地域からのニュース: アメリカ、インド、韓国、香港、モルドバ、タイ、ブラジル / 新型コロナウイルス感染症に触発されて / 都市封鎖時の余暇 / 魂の真言「生徒と教師」

読者の皆さまへ



私たちは、コロナウイルスによる世界的なパンデミックのために、将来のことがわからず、恐怖とパニックの雰囲気の中で一年の大半を過ごしてきました。前号では、このことについて簡単に書きましたが、すぐに治まることを期待していました。

しかし、今やコロナウイルスは、どの国にも蔓延しています。約1,000万人が感染し、50万人近くが死亡しています(6月29日現在)。感染が治まり、世界が正常に戻る兆しはあるのでしょうか?

そのことは忘れてください、と専門家は言います。それと一緒に生きることを学び、「新しい常態」を考えることだと彼らは言っています。私たちは皆、自宅で快適に過ごしつつ「新しい常態」を少し経験してきました。

ロックダウンによって物理的な孤立と感情的なフラストレーションがもたらされたとき、私たちは、仕事を行うための代替手段を考えることを余儀なくされました。それは、デジタル接続を加速させ、オフィスの同僚、クラブの仲間、家族の集団、さらには信仰を共にする者とのつながりをもたらしてくれました。要するに、このパンデミックは、私たちに日常生活の別の方法を教えてくれたのです。家を持つという贅沢をする余裕があり、それを実現するための資金力がある人にとっては、それは、すべて良いことです。では、他の人たちはどうでしょうか?

全体的には、経済的な影響も巨額です。世界経済は、8.8兆ドル、言い換えると、地球上のすべての男性、女性、子供ひとりあたりにとって1,000ドル以上の規模で縮小するとされています。これは、正規経済と非正規経済の両方で20億人以上の人々に不幸をもたらします。彼らは生計を失い、より貧しくなるでしょう。

このような状況の中で、危機に瀕しているのは公衆衛生と人々の生活です。高齢者、貧困層、社会から疎外された人々は、このような状況下で最も脆弱な立場にあります。YMIは、これらの人々に対する懸念を表明し、世界の指導者たちに具体的な

表紙: モルドバ・キシノウイズメンズクラブとモルドバYMCAのメンバーたちが街の中心部の公園の清掃奉仕を提供。詳細は17ページ。

ワイズメンインターショナル公式誌

国際本部: Ave Sainte-Clotilde 9, CH-1205 スイス

国際編集長: コシー・マシュー

日本語版翻訳グループ: 田中博之(委員長、東京多摩みなみ)、

青木一芳(千葉)、朝倉正昭(東京世田谷)、

今城高之(横浜つづき)、利根川恵子(川越)、

太田勝人(東京町田スマイリング)、比奈地康晴(東京)、

倉田正昭(京都)、田尻忠邦(大阪)、谷川寛(大阪センテナル)、

谷本秀康(東広島)、中井信一(奈良)

印刷: (株)三浦印刷所 三浦克文(岡山)

行動を求めています(5ページの声明を参照)。

今こそ、政府と人々が、すべての違いや見栄を脇に置いて、お互いに連帯感を示す時です。最前線の保健医療従事者たちは、パンデミックに立ち向かい、最善を尽くしてきました。また、人々は、経済的に困窮している人々に手を差し伸べてきました。私たちのクラブの会員は、人間性の叫びに応えることで自分の役割を果たしてきました。本号では、そのような「行動の物語」を多数掲載しています。

今号は、いつもより少し分厚い号になっていることにお気づきでしょうか。カナダのデビッド・ホールがYMIのために開発したリーダーシップ開発プログラム「GOLD 2.0」についてのお知らせで4ページを追加しました。クラブ会員の皆さまには、このプログラムを利用して、リーダーシップ開発を楽しく、刺激的なものにすることができますので、ぜひご活用ください。

私たちは、感染したり、親愛なる友人や家族を亡くしたりして、パンデミックの影響を受けたすべての人々に連帯の意を表し、ロックダウンによって引き起こされた痛みと悲しさがすぐに終わり、私たちが平常心で日々の活動を再開できることを願っています。ワイズリー

コシー・マシュー

私の本棚から

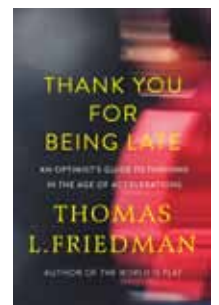
遅刻してくれて、ありがとう: 常識が通じない時代の生き方

トーマス・L・フリードマン著

トーマス・L・フリードマンは、これまでで最も野心的な作品の中で、私たちがめまぐるしく加速する時代に突入したことを示し、その中で生きる方を説明しています。コンピューティング能力の指

数関数的な増加により、エベレスト山頂の登山者は優れた携帯電話サービスを楽しみ、自動運転車が道路を走り始めています。経済的な相互依存関係の並行した爆発は、新たな富を生み出すだけでなく、債務負担を増大させています。一方、母なる自然もまた、炭素レベルが上昇し、種が絶滅し、複合的な結果として劇的な変化を見せています。

これらの変化は、どのように相互作用し、どのように私たちは、それらに対処することができるでしょうか? 現在の状況をより良く理解するために、フリードマンは、彼のミネソタでの子供時代に戻り、政治が機能し、中産階級に参加することが達成可能な目標であった世界をスケッチします。それとは対照的に、今日では、何かを作る者(3Dプリントを試してみてください)や壊す者になることは、これまで以上に簡単ですが、リーダーや単に「平均的」になることは、今まで以上に難しいのです。フリードマンは、国家や個人は、素早さ(革新的で迅速な適応)、公平さ(変化の犠牲者を助けること)、遅さ(雑音をシャットアウトし、最も深い価値観にアクセスすることに長けていること)を学ばなければならないと結論づけています。ビジョン、厳然さ、そしてウィットで、「遅刻してくれて、ありがとう」は、私たちの時代について考える方法のための青写真を確立しています。(A Goodreads reviewから)



何という一年間だったことでしょう!

国際会長 ジェニファー・ジョーンズ



2019年度は私にとって最もエキサイティングな1年間でした。私にこの期の国際会長という名誉ある役を与えてくださった皆さまに感謝いたします。予測可能なものとして始まった年度でしたが、実際は驚きと挑戦に満ちた1年間でした。

年度の公式な第1歩は、7月に日本の仙台での国際執行役員会、国際議会、続いてのアジア太平洋地域大会でした。どの会も順調に進められ、特に大会での国際執行役員就任式は、私たちにとって格別の時でした。私の2人の息子と孫娘が同席できたことも幸いでした。大会中に2011年の東日本大震災と津波の被災地を視察できたのは全参加者にとって意義深いことでした。

8月上旬にロンドンで世界YMCAの175周年記念行事があり、私は、夫ラッセル、ジョース国際書記長、ウルリック・ラウリセンヨーロッパ地域会長とともに参加して交歓しました。YMIのブースの立ち番をして大勢の参加者にワイズ運動をPRし、名刺交換して世界各地各国へのワイズ拡張の可能性開発に努めました。YMCAとのよい関係を築き、支援を行うことは、ワイズの第1の奉仕目的としてあり続けます。

「チャレンジ22」は、YMIに、私たちが目標に向かって努力する際の行程を示しています。「100日間会員増強キャンペーン」は、クラブが会員増強の大切さと近隣社会への奉仕の大切さを注視するよう促します。このキャンペーンは、期待したほど効果を得ていないかも知れませんが、核心は衝いているので、年内に再度実施したいと思います。

「遺産プロジェクト」も、ワイズ組織の財的基盤強化を目指すうえで、YMIにとって大事な企画です。この事業の推進者ムン・サン・ボン直前国際会長、ジョース・ヴァルギース国際書記長、デビー・レドモンド元地域会長、キム・サンチェ地域会長に謝意を表します。今のコロナ禍でこの事業への献金が鈍っていますが、事業を成功に導く努力を続けることが大切です。

年度のもうひとつの目玉は、ワイズゆかりの地オハイオ州トレドで開催された、初めての「次期理事サミット」でした。全世界から100名近いワイズ指導者が、自費参加の者も含めて出席したのは壮観でした。皆YMIのルーツに親しく触れて、ワイズの未来への夢と希望を分かち合うことができました。横のつながりができたことも、この催しの大事な収穫です。次回の当サミットは、韓国での開催が計画されています。

ラッセルと私は、年末にカリフォルニアを訪ね、クラブ会

員宅に2週間余滞在しました。米国地域太平洋南西区主催の国際会長晩餐会に招かれ、ローズボウルパレードを鑑賞しました。数クラブの会合に出席して会員の皆さんに会い、ロサンゼルスやヨセミテ国立公園を観光できたのも幸いでした。

困難な日々

年度内には何度か困難で悲しい日々がありました。8月下旬にポール・ヘンリック・ホープ・ジェイコブセン次期国際会長急逝の悲報が届きました。国際で共に奉仕する友情を固めようとしていたところでした。幸い代わりにジェイコブ・クリステンセン次期国際会長を得、急遽、次期への準備をお願いすることができました。しかし、もうひとりの次期国際会長候補だったインドのヴィジヤクマール氏が逝去、さらに最近ポール・V・トムセン元国際会長が逝去されました。これらの方々が私たちに遺されたものの大きさを憶えます。2月にわが豪州ベンディゴで国際年次会議をお世話し、多くのワイズ指導者を迎えることができました。カンガルーフラットクラブには国際執行役員会の会場提供、市庁舎への訪問の案内をしていただきました。豪州YMCA役員との会合も実現し、今後のワイズとの協力関係を展望することができました。

私的な事ですが、7月の国際議会の直前に乳がんの告知を受け、8月の手術で治癒しました。各地の友人の祈りに支えられました。予後検診のためカナダ/カリブ海・米国合同地域大会には参加できず、代理出席したラッセルが私の挨拶をオンラインで流してくれました。最近孫息子が誕生し、コロナ禍の中に光を与えられました。このウイルスによりYMIが影響されているのは確かですが、クラブ会員が新たな方法で集い、活動しているのを見聞きて心を熱くしています。

この12か月、私を励まし続けてくれた私自身の信仰とわが家族に感謝を捧げます。大切にしている聖句は、「わたしの恵みはあなたに十分である。力は弱さの中でこそ十分に発揮されるのだ。」(コリント二12章9節)です。これは、役員に選ばれた私たち皆に与えられるイエスの確約の言葉です。ムン・サン・ボン直前国際会長の思慮深い助言指導に感謝します。そして、ジェイコブ・クリステンセン新年度国際会長、キム・サンチェ新年度次期国際会長と新たなチームを組んで、YMIがより存在意義のある運動となり、より強く成長するように、力を尽くして参ります。

私にも夢があります…

親愛なる皆様

私たちは皆、夢を持っています。その中でいくつかの夢は、実現しますが、多くは、ただの思いで終わってしまいます。私の夢には、これからのワイズに関連した夢もあります。各地域の環境、活動、努力に依存している夢です。新型コロナウイルス感染症が無い普通の世界のコミュニティーを夢見て、そこでは各クラブの内外で集まることができ、活動的になれます。

同時に、私たち皆、今や以前とは状況が違うことを知っています。新型コロナウイルス感染症は、将来採用すべき多くのことを教えてくれました。今回のコロナウイルス危機は、これからの世界がより良くなるべき多くの種を包含しています。活動する方法も変わりました。私たちは、新しい方法で会います。時間の使い方も変わりました。私たちは以前より以上に、地域社会、家族の絆を大切にするようになりました。今まで以上に他の人との活動—他者を助けることを考えるでしょうし、私たちの生き方も変わってくるでしょう。

今や、慈善活動の上に成り立つ社会の実現の機会があります。クラブ活動、地域社会、友情、また、自分とクラブとの関わりについて、最善の行動を取り、焦点を当てる必要があります。

ワイズメンズクラブ国際協会の憲法は、私たちは「イエス・キリストの教えに基づき、相互理解と敬愛の思いに結ばれて、あらゆる信仰の人々が共に働く、世界的友好団体であり、YMCA に対する忠誠心を共にしつつ、活発な奉仕活動を通じて、リーダーシップを開発、助長、供給して、全人類の為よりよき世界を築くべく尽力する」団体であると言っています。この考え方は、私が選んだ「命の川を信じよう」のスローガンと合致します。この言葉は、ヨハネの黙示録 22:1-5 から採りました。

今年の私のテーマは、「**価値観、エクステンション、リーダーシップ**」です。—この3つが私たちの運動の根幹です。

価値観：当然発せられる質問は、「なぜあなたはワイズメンになったのですか?」です。この質問は、あなたの友人からも発せられるでしょう。みなさんがワイズメンになった理由は、それぞれ異なるでしょう。この質問は、クラブ例会で考える問題かもしれません。自分自身と自分の価値観を知ることは、あなた自身とあなたのクラブにとって良い土台となります。

エクステンション：私たち全員がエクステンションを考えなくてはなりません。私たちは、成長する必要があります。エクステンションとはどうやって会員を増やすか、どうやってクラブメンバーを大切にするか、どうやって私たちの運動を推進していくかです。

リーダーシップ：私たちの運動では、会員全員がリーダーになる可能性を持っています。クラブの委員会の長であったり、クラブ会長であったり、部長であったり、区理事であったりです。誰もひとりではリーダーの役割は担えません。ですから、委員会がありますし、トロイカ体制があるのです。チームがあるからこそ、お互いに意見をシェアし、共に働き、計画を立て、新しい期の目標を立てることができます。チームワークの素晴らしさは、他に類をみません。

来るべき1年の私の夢は、会員全員が少なくともひとりの友人を例会に誘うことです。それによって、会員増強のスピードアップが図れ、友情、幸福、喜び溢れるクラブ活動を行えます。

是非、皆様に YMI に変革をもたらし、楽しく意味ある活動にするためのことを考えていただくことをお奨めします。

私たちの運動が、各クラブでの働きを通じて、私の夢が実現するのを見ることを楽しみにしています。

これからの1年が意義ある、実り多い年となるよう祈ります。

ワイズリー



2019-2020 次期国際会長



ワイズメンズクラブ国際協会 地域に奉仕し世界中の YMCA の使命とパートナーを組む

ワイズメンズ国際協会は、新型コロナウイルス感染症蔓延の中で、高齢者、低所得者、疎外されている人々に深く憂慮の意を表明いたします。

ワイズメンズクラブ国際協会は、70 か国にある 1,500 以上のコミュニティでの社会的変化に関わるボランティアを団結させています。過去 98 年にわたり私たちのクラブは、友情、親睦、必要としている地域社会への奉仕を通じて、幸せに満ちた人生を送れるように会員に働きかけてきました。世界的な運動として、私たちは 26,000 家族のネットワークの力を活用し、新型コロナウイルス感染症のパンデミックをきっかけに、孤立と恐怖の影響を感じている人々に慰めと希望を提供しています。私たちは、医療の最前線で奮闘し、命を救っている医療従事者を、私たちが持つ技術、人材および精神的強靭さを結集してサポートすることに注力しています。また、私たちは、事業活動の停止と新型コロナウイルス感染症への安全対策の実施により、生活に影響を受けている貧困層や社会的に疎外された人々にも手を差し伸べています。私たちは、主要なパートナー組織である YMCA と連帯し、組織の回復力を高め、若者に力を与えるという使命にコミットする YMCA の努力に協力しています。

ワイズメンズクラブ国際協会は、ボランティアを主体とし、年代を超えて活動する協会です。会員の多くは、活動的な高齢者です。

私たちは、ユニークな団結を通して、世界中の地域社会が癒され、繁栄するために、革新的な行動を起こす方法を見出すという課題に取り組むことを約束し続けていますが、新型コロナウイルス感染症蔓延の中で、私たちの会員は、社会活動やボランティア活動について懸念を表明しています。私たちは、「強い義務感を持つ 義務はすべての権利に伴う」という組織のモットーをどのように守り続けていけばよいのでしょうか？

ワイズメンズクラブ国際協会は、世界のリーダーたちに以下の項目を達成できる方法を見つけ出すよう要請します。

a. デジタルデバイド(情報格差)の影響の軽減 インターネットやその他のデジタル技術は、都市封鎖の間、私たちにとっての世界への窓となって、家族、友人および地域社会とつながることを可能としてくれました。世界の人口の約半分は、インターネットへのアクセスができますが、あとの半分は、オフラインのまま、つながることができず、インターネットによる情報から遮断されています。この事は、単に他の人

とつながる機会がなくなるだけでなく、インターネットから得られる多数の知識やそれを利用出来る機会を逃しているのです。多くの高齢者や貧困層、社会的に疎外されている者にとって、もし、それらの人々がデジタルサービスに接続できるとしても、そこから得られる事は、限られていて、しばしばこれらの人々は、それらを十分に活用するのに必要なスキルを持っていないことが多いのです。このことが社会から見捨てられているという感情や社会から孤立していることの悪影響を募らせます。

YMI は、国際的な接続性、公平な機会提供および社会的な福利のために手頃な料金で提供されるインターネットと使いやすいデジタル技術を支援しています。

b. 物理的に距離を取ることを影響の軽減 新型コロナウイルス感染症は、自宅待機、隔離、都市封鎖などの移動や接触を制限する管理を通じて、高齢者の社会的排除を悪化させるリスクがあります。このような措置は、公共安全を確保するためには非常に重要ですが、高齢者が直面する現実を考慮し、結果として健康を悪化させてしまうかも知れない社会的孤立を増やさないような配慮がなされなければなりません。YMI は、少人数の安全な空間を作ることで、その支援を行なっています。

私たちは、サービスクラブのボランティア／保健医療従事者が定期的に訪問し、ひとり暮らしの高齢者の心の健康と福祉を強化するための特別なケアを提唱しています。

新型コロナウイルス感染症は、人類にとって過去に比類ない程の課題をもたらし、高齢者、貧困層、社会的に疎外されている人々の健康、生命、権利および福祉に大きな脅威を与えています。パンデミックと戦うための私たちの努力において、これらの人々の直面するニーズや権利に対処することによってリスクを最小限に抑えることは、極めて重要です。新型コロナウイルス感染からの回復は、人権の普遍的な尊重と「誰一人取り残さない」ための「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」で世界中が共有している約束に導かれた、より包含的で、公平で、年齢の壁を越えた社会のための舞台を整える機会です。

ジョース・ヴァルギース
国際書記長

モットー:「強い義務感を持つ
義務はすべての権利に伴う」

米国太平洋南西区 – 渚に寄せる波のように信念と連帯を植え付けて

元区理事 ティム・シングルタリー



ワイズメンズクラブ国際協会にとって歴史的なこの区を取り上げて頂き光栄に思います。太平洋南西区(PSR)は、YMIにとって、会員数、リーダーシップ、そして何より連帯において重要な役割を担ってきました。私たちは、組織(YMI)そのものと同じぐらいの長期間にわたる

活動を続けて来ており、私たちメンバーは、この偉大な歴史を大変誇りに思っています。

私たちは、地理的に大変大きな区です。PSRの境界線は、アラスカ、ハワイを除く米国48州の優に4分の1を占めます。1947年にはPSRに所属する会員数が余りにも多くなったことから、区を分割することを決め、その結果、太平洋中央区が誕生しました。2018年に私たちは、2つの区を元の一つに戻すこととし、過去の境界線を再構築しました。

前世紀以降、私たちの各クラブは、地域社会の活性化や、波が絶え間なく渚に寄せるように、信念と連帯を植え付けて地域のYMCAに奉仕してきました。長年にわたる基金集め、YMCAの建設、キャンプの開催、地域イベントへの参加などは、相当な数に上ります。今申しあげたことを次に例示します。

会員

私たちの最も古いクラブのチャーターは、以下のとおりです。パサデナ・ワイズメンズクラブ(1928)、イングルウッド・ワイズメンズクラブ(1944)、バーバンク Y サービスクラブ(1945)、ツーソン Y サービスクラブ(1947 – 元々のツーソンセントラルを縮小して)、ウイットティアー AM ワイズメンズクラブ(1948)

私たちの会員数がピークに達したのは1974年で、1,618

名の会員が77のクラブに所属していました。私たちの区が女性メンバーの受け入れを始めたのは1980年代の初めです。私たちは2012年に、米国地域最初のユースクラブであるサグアロ・ユースクラブを立ち上げたことを大変誇りに思っています。

リーダーシップ

PSRが就任式における「4つの「I」」、即ち、Idealism(理想主義)、Interest(関心)、Initiative(率先)、Industry(勤勉)を発明したようです。PSR出身の素晴らしいリーダーたちが、地域レベルの様々な要職に就きました。中でも私たちが特に誇りに思うのは、以下に掲げる11名の国際会長を輩出したことです。初代のジョージ・グールドが掲げたテーマについての記録がありませんが、一人ずつ進めて行きます。

世界の平和のための世界の仲間	レスター・ハンフリー(1953)
ワイズダムで共に前進	ジョン・ポールソン(1958)
神の下のこの世界	ハーモン・ウィルカーソン(1961)
能力から責任へ	ロイ・ネイラー(1965)
信念と前進	ハインツ・グリーピア(1972)
準備はいいかい?	ジム・ミューラー(1976)
連帯からのチャンス	マックス・ラーソン(1982)
手を差し伸べる	クレア・グラハム(1983)
実際の行動から積極的献身へ?	エリック・キム(1998)
奉仕を通しての成長!	ビル・ワード(2002)

(今私たちに必要なのはメロディーで、必ずヒットするでしょう)



太平洋南西区からご挨拶



本を欲しい人は誰？ みんな！



パンケーキ作りでユース支援

PSR は、1976 年にアナハイムおよびディスニーランドにおいて国際大会を主催しました。

連帯

長年に亘って PSR は、101 に及ぶクラブと共に歩み、互いに繁栄し、一方で縮小されたり衰退したりしてきました。振り返れば、2000 年代、シールビーチ・レジャー・ワールドクラブは、世界で 2 番目に大きなクラブでした。

大きかろうが小さかろうが、PSR の各クラブは、所属する YMCA や地域社会に対して、クリスマスツリーや花(ポインセチア)の提供、慈善市、古新聞集め、パンケーキ作り、フルーツの提供、図書市、ビンゴゲーム、バーベキュー、ダ



頑張っているヘンリー・フォックス

ンスパーティーなどによって支援を行って来ました。現在の私達は、21 クラブに約 250 名のメンバーが所属しています。

YMCA に対しては、理事会支援、建物建設、プログラムのボランティア支援、キャンプ体験・指導などの得意とする分野で支援しています。

これまで、奉仕活動を組織するのに多忙を極めたため、費やした時間や献金金額などを計算する時間がありませんでした。恐らく、ざっと申せば、PSR が奉仕に費やした時間は数百万時間、地域社会に費やした金額は、数百万ドルに上り、更に、その百万倍の笑いと楽しさを提供できたものと思っています。



サンタとワイズマン



2018 年の国際会長晩餐会でのユースクラブ入会式

PSR の 区大会には 350 名もの代表が集ったものでした。それは、大きなイベントでありましたが、その全てはゆっくりと進

められました。私たちは、この伝統を、参加者は、若干少なくなりましたが、今も続けています。

PSR は、近年、素晴らしい年次行事である国際会長晩餐会を再開しました。それには、パサデナ・ローズパレードの特等席、サービスパートナーの VIP 昼食会ならびに国際会長を祝っての区晩餐会などが含まれます。

将来の奉仕

1970 年代に遡りますが、PSR の産業人メンバーの何人かが「PSR 百科事典」に着手しました。この本の編纂は、当初、新メンバー、新クラブ用の教育ツールとして始められましたが、その後、生きた歴史として作られるようになりました。それは、情報の記録文書となり、今もそのように取り扱われて機能しています。私たちは、現在、これをコンピュータ化する作業を行っています。

PSR は、継続して YMI のユース強化策に関わり続けます。私たちの評議会や役員会は、定期的に会合を持ち、クラブメンバーをひとつにするイベントを計画しています。私たち全ては、歴史に深く染み込んだこのような組織に所属していることを光榮に思っています。

日本 -92年間を駆け足で振り返って-

アジア太平洋地域会長 田中博之



最初のクラブ

日本最初のクラブは、1928年に国際協会に加盟認証された大阪クラブです。1927年、大阪YMCAの26歳の主事、奈良傳が、YMCA会員制度の調査・視察のために米国に留学しました。ここで、当時のワイズメンズクラブ国際協会書記・会計のヘンリー・D・グライムスに会い、意気投合し、日本の主要都市にワイズメンズクラブを設立する約束をしました。帰国後ただちに当時大阪YMCA内にあった実業家によるYMCAへの奉仕グループである大阪Y倶楽部をワイズメンズクラブに改組する提案をし、1928年11月10日付で、日本最初のクラブとして、国際協会の認証を受けました。続く3年間で、京城(今のソウル。当時韓国は、日本の一部でした)、神戸、横浜、東京の各クラブがチャーターされました。



奈良 傳

1932年には日本区の設立が認められ、区大会等の催しも行われ、活動、交流が活発化しました。

試練の時代

しかし、やがて日本は、日本軍の中国大陸進出によって、国際世論の非難を受け、国際的な孤立状況に陥りました。1941年1月、日本が戦時体制を固める中で、国際協会との関係を持つことが困難になり、国際協会脱退届を提出しました。同年12月、日米が開戦しました。各クラブは懸命に例会を続けましたが、やがてそれも困難となり、会員も四散し、自然休会となり、1945年8月に敗戦を迎

えました。

クラブの再生

平和にはなりましたが、食糧をはじめすべての物資が不足し、また、戦争後期の米軍の空襲によって日本のインフラは破壊尽くされていて、国民は、疲弊しきっていました。しかし、間もなくワイズメンがYMCAを再び訪ねてくるようになり、1946年から弁当持参の例会が各地で開かれるようになりました。同年、全国のYMCA主事が集まり、復興計画が策定されました。そこにはYMCAの働き人としてのワイズメンズクラブへの期待がありました。ワイズメンもクラブもワイズ運動の精神を失ってはいなかったのです。

国際協会に復帰

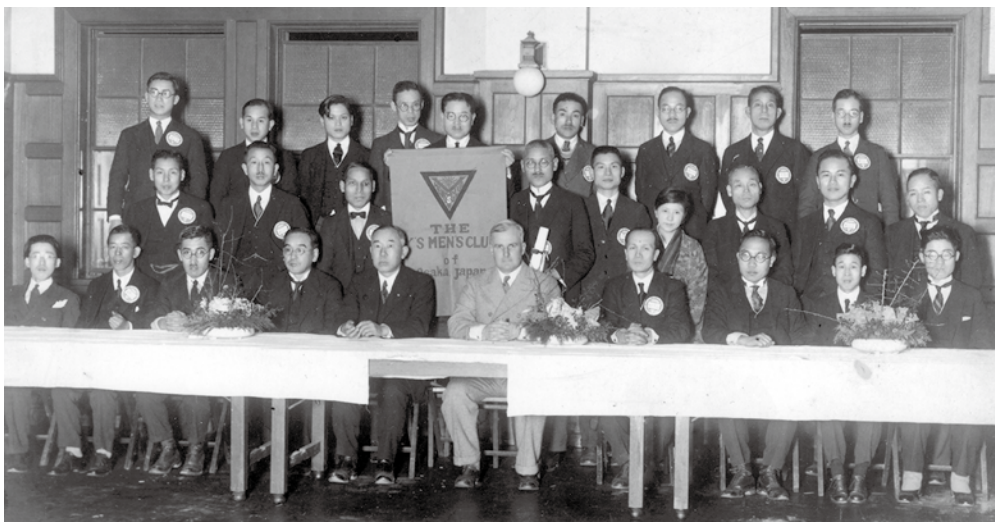
1946年、米国ペンシルバニア州ブラッドフォードでの第22回国際大会で、日本の国際協会復帰受け入れが提案され、満場の拍手で承認されました。1947年、軍務で韓国に駐在していたカール・N・バーグストローム前国際理事が来日し、各地のクラブを巡り、また、連合軍総司令部(GHQ)に日本区の国際協会復帰許可の後押しをしてくれ、日本の民間団体では異例の国際組織への早期復帰が実現できました。1947年から1949年までに金沢、福岡、名古屋、京都等の21クラブが新たに国際協会に加盟しました。

上げ潮

1959年、日本で初めてのアジア地域大会が東京で開催されました。参加者数は、海外からの参加55人を含め302名でした。この頃、クラブ数は40を超えていました。1966年のハワイ・ホノルルでの第42回国際大会には日本

から118人の代表が、飛行機をチャーターして参加しました。この大会では1954年から1957年に国際副会長も務めた奈良傳がハリー・M・バラントイン賞を受賞しました。アジア地域からの初めての受賞でした。

なお、この後、鈴木謙介(1982)、竹内敏朗(1987)、田中真(1995)、三井満寿雄(2002)、今村一之(2006)、奈良信(2010。奈良傳の子息)、藤井寛敏(2018)が受賞しています。



大阪クラブのチャーターナイト



チャーター機でホノルル国際大会に出発する日本区代表

大会のメインテーマは、地球環境問題で、この大会の成果は、今も世界のワイズ運動に活かされています。

YMCA との協働・自然災害被災地支援

日本のワイズ運動の特徴のひとつは、YMCA との緊密、良好な関係です。国際憲法のガイドラインには「全てのクラブ会員は、関連地区の YMCA の会員になることが望まれる」とされていますが、東・西日本区の定款では、いずれも「クラブの会員は、YMCA の会員になるものとする」と定められています。クラブにはその所在地に YMCA が無い少数の例外を除いて、

YMCA の担当主事がクラブ会員として参加しています。

日本のワイズ、YMCA は、これまで、さまざまな面で相互に協力してきましたが、その具体的な例として自然災害被災者、被災地支援が挙げられます。近年では、1985年の阪神淡路大震災、2011年の東日本大震災、2016年の熊本地震、2019年の台風19号・15号がその代表的な例です。両者は、常に協力して被災地でのワーク活動、募金活動を行ない、大きな成果をなしとげてきました。日本で5回目の開催となったアジア(太平洋)地域大会である2019年の仙台での第28回アジア太平洋地域大会の最大の目的は、東日本大震災でのワイズと

1975年、第51回国際大会が熱海市で開催されました。アメリカ大陸、ヨーロッパ大陸以外で初めて開催された初の国際大会でした。24の国と地域から1,115人が参加し、参加者は、市を挙げて歓迎されました。この大会で鈴木謙介がアジア地域から初めての国際会長に就任しました。以後、日本からは、竹内敏朗(1984-1985)、青木一芳(1994-1995)、藤井寛敏(2010-2011)が国際会長を務めました。また、彼らの他に、これまで7人がアジア(太平洋)地域会長を務めています。

着実な発展

1970年代初めの新国際憲法の制定を受け、新しい日本区定款も1976年に発効しました。当時の日本区のクラブ数は58、会員数は、1,519でした。以後、区の組織、制度の整備が進み、会員数も増加していきました。1988年、第58回国際大会が京都で開催されました。24か国から、2,248人が参加し、これは、当時の大会史上最多の参加人数でした。1997年、日本区は、東・西両区に分割しました。当時のクラブ数、会員数は、適正な規模を超えていたからです。東日本区57クラブ、1,246人、西日本区81クラブ、1,952人での出発となりました。2010年、第69回国際大会が、日本における3回目の国際大会として東西日本区の協力、YMCAの支援で横浜にて開催されました。世界28か国・地域から1,422名の参加が有りました。



京都国際大会

展望



韓国は感染症対策が万全

地域会長 キム・サンチェ博士

COVID-19は、中国湖北省武漢市で最初に発生した新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)感染による呼吸器症候群です。呼吸器の飛沫を介して伝染することが知られています。最初の発生原因や伝染経路は明らかにされていませんが、種を超えた感染によって人と動物の両方に感染することがわかっています。遺伝子の構成は、コウモリ由来のSARSとよく似ていますが、まだ決定的な証拠はありません。

新型コロナウイルスの原因

コロナウイルスの原因については、いくつかの説があります。現在、人為的発生説と自然発生説に二分されています。

まず、人為的発生説は、中国の武漢で発生したという事実に基づくものです。この説では、感染すると治療や予防が困難な病原体を扱うバイオセーフティレベル4の施設である武漢ウイルス研究所が、生物兵器開発実験中にCOVID-19の起源を引き起こしたと言われています。しかし、COVID-19は、致死力が低く、生存時間が短く、何より、大量培養が容易ではなく、管理が困難であることから、COVID-19が生物兵器になる可能性は、非常に低いと考えられます。これらの性質は、兵器にするには適していません。さらに、COVID-19のゲノムには、人為的な兆候がなく、人工的に作られたと主張することは困難です。

フランスのAFP通信社によると、WHOの健康危機管理プログラムの責任者であるマイケルライアン氏は、「ウイルスは自然界で発生するものであり、実験室で人工的に作られるものではない」と述べ、ドナルド・トランプ大統領が提起した疑問を払拭しています。

別の説では、COVID-19は、自然の突然変異によって生まれたと言われています。端的に言うと、遺伝的な突然変異はありますが、変種はないということになります。COVID-19が唯一の変異の形ではなく、すべてのウイル

キム・サンチェ博士は、ワイズメンズクラブ国際協会韓国地域会長であり、アジア諸国を訪問する「ワイズメン・ドクターズ」事業の主な主催者でもあります。最近では、2020-21年の次期国際会長に選出されました。キム博士は、私たちの特別な依頼を受けて、「YMIワールド」のためにこの記事を書きましたが、ここで述べられている考え方は、キム博士のものであり、必ずしもワイズメンズクラブ国際協会のものであるとは限りません。

スは増殖中に遺伝形質の配列に変異を受ける可能性があり、変異は、増殖や病原性に影響を与えるか、全く影響を与えないかのどちらかとなります。

懸念事項

COVID-19が地球上に急速に蔓延していることから、新たな悪性の菌種の出現が懸念されていますが、世界中の研究の分析によると、新たな悪性の菌種が出現したという証拠はないことが示されています。現在、科学者の間では、COVID-19の動物からヒトへの感染は、農業、狩猟、野生動物の輸送などの自然な方法の中で起こっていることが多いと考えられています。

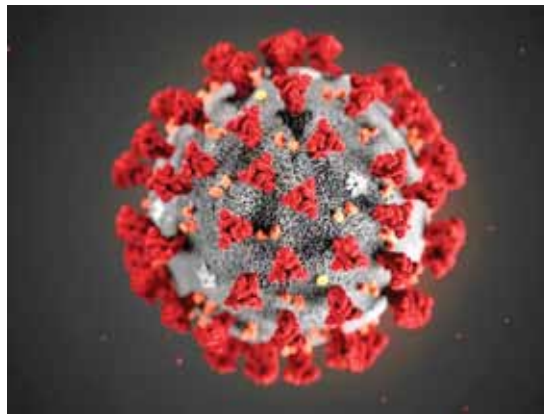
まだ決定的な証拠はないようですが、ウイルスの自然宿主を特定し、どのようにして動物とヒトの間で感染が広がったのかを理解することに注力する必要があります。

コロナウイルスは、人間の過ちに対する神の裁きであるという説もありますが、人間の過ちを神に転嫁するのではなく、この先例のない時間を、コロナ禍をどのように克服していくのかを考え、賛美と信仰の意味を見出すことに用いることができるのではないのでしょうか。

韓国の感染予防システム

2003年にはSARS、2015年にはMERSの発生を経験していて、韓国の医療環境と対応力は、格段に向上していると言えます。特にMERS発生後は、感染防止システムが強化され、感染症を扱う専門病院や医療施設が国や地方自治体と積極的に連携しています。連携ネットワークでは、熟練した専門家の提供、個人用防護服の備蓄、先制策を講じる手順の作成などが行われました。感染防止施設では、優先度判定エリア、管理されたドア、陰圧室を備え、来訪者の立ち入りを制限しています。

特に韓国では、咳や発熱の疑いがある場合には、医療機関に入る前に個別に治療を行うスクリーニング・クリニックを設置しています。4月8日現在、スクリーニング・クリニックを設置している地域保健センターと医療機関は合計638カ所、そのうち606カ所(約95%)では直接検体を採取しています。スクリーニング・クリニックを運営することで、ドライブスルーやウォークスルーの形で大量の診断検査が実施されています。1日の最大検査能力は2





GOLD プログラムの概要

*「GOLD2.0」は、全世代、全てのクラブメンバーのための、相互に学び合い、新しいリーダーシップを発揮するスキルと既存のスキルを強めるプログラムのことです。

*カリキュラムは、個人が独りで行ったり、仲間と一緒に行ったり、あるいは少人数のグループ(オンラインまたは実際に向き合っ)やクラブ例会や区・部のワークショップで実施できるようにデザインされています。

*目標は、私たちの運動すべてにおいて、リーダーシップのレベルを全体として向上させることにあります。区、地域 および国際レベルでのリーダーシップの役割を果たそうとする者のためだけではありません。このプレゼンテーションは、GOLD のカリキュラムからの活動例とアイデアを皆さんに紹介します。それらは、リーダーシップ開発 における革新的なアプローチを示しています。それは、参加者を巻き込んで、彼らが重要な知識とスキルの源で あるということを認識させ、また、チームワークと協力関係を推進するインタラクティブな演習を共に行わせます。

GOLD のカリキュラム

*もしあなたが、リーダーシップ開発プログラムを立案しようとするなら、何を優先しますか? GOLD2.0 は、13 のモジュールで提供されています。それは7つの主要テーマから成っています。コミュニケーションスキル(3 モジュール)、プレゼンテーションスキル、グループ活動円滑化スキル(3 モジュール)、意思決定スキル、モチベーションスキル(3 モジュール)、目標設定と計画スキルそして問題解決スキルです。

*利害対立解決スキルについて開発中です。

* GOLD のアプローチは、私たちの組織の中でのニーズへのオーダーメイドです。私たちは、YMCA への奉仕活動とワイズメンズクラブの役に立つ最高のアイデアを集めてプログラムを開発しました。

*常に新しいアイデアを採り入れて、より良いものにしようと心掛けています。皆さんのアイデアも共有してください。

GOLD の学習活動

*誰でも課題や問題についてアイデアを共有しようとするときは、まずそれらをリストアップし、計画に向かって行動します。エキスパートが提供するであろう全ての解決策を、通常、グループが持っていることは、素晴らしいことです。このことが、経験を通して学ぶサイクルである GOLD の学習方式なのです。

経験を通して学ぶサイクルには、4つのステージがあります。

- ①活動は、ゲーム、ビデオ、ロールプレイング、講演の映像、シミュレーション、パワーポイントのプレゼンテーションなどの経験から始まります。
- ②グループのメンバーは、この経験への反応をシェアします。何を学んだか、どう感じたか、疑問点は何かなどです。
- ③それらの反応は、状況や問題に対してのアプローチをまとめる総合的な文章を作るために統合されます。
- ④これらの新しい学びは、プロジェクトに応用されます。

それぞれの学びの活動には、個人のアイデア / 提案を記録するワークシートがあり、グループの統合されたアイデアへの参考や比較のための付録となります。全ての参加者には、全ての配布物のコピーを含む記録をつけることを強く奨めます。



成人教育の基本

プレゼンターがすべての知識を持っているかのように情報を共有するという旧来の方法では、成人が新しいスキルを身につけることはできません。学習者は、自分の経験や見識を共有することで、プロジェクトやプログラムの実施に彼らのスキルで貢献することができます。これらのガイドラインは、ファシリテーション 101 モジュールで説明されています。

コミュニケーションスキル

コミュニケーションの問題は、クラブのリーダーがよく口にする事です。GOLD では、まず、コミュニケーションについての 10 の「C」に焦点を当て、各「C」で始まる語をマスターするためのアクティビティを用意しています。

課題 #1:

私たちの運動の中で、コミュニケーションを向上させるために最も重要だと感じる、C の文字で始まる 5 つの言葉は何ですか? P14 の解答欄でお奨めをチェックしてみてください。

課題 #2:

あなたは常に明確で完全な情報を持っていますか? この演習を試してみてください。それがどれほど重要なことなのかを知ることができます。

右の数字群の中で、「1」から始まるそれぞれの数字を順番に○で囲んでいきます。これを正確に 25 秒間行います。最後の数字の周りを四角で囲みます。何個丸をつけましたか?

追加の情報については、解答欄をチェックしてください。

あなたが停止したところから、さらに 25 秒の間、数字を順番に○で囲むことを再開します。完全な情報を持っていることによって、どれだけより多くのことができたかを確認してください。



プレゼンテーションスキル

皮肉にも私たちは、このモジュールについてパワーポイントによるプレゼンテーションを、必須な情報を提供するためにを行っています。しかし、私たちは、討論と意見交換を行う時間を付け加えました。あまりに枚数の多いスライドショーは、著しく退屈で、「パワーポイントによる死」は共通の問題です。このことは、ファシリテーション能力モジュールで触れています。

意思決定スキル

クラブの決定が時には悪い気分にしてしまったり、その過程が欲求不満を起こしたりすることになっていませんか?このモジュールでは、あなたのクラブのメンバーによって広く支持されるであろう解決策に至る多様な方法を提供します。多くの場合、鍵になるのは、合意を達成するようにすることで、分裂や決定的な反対を生み出す投票を避けることです。



グループ意思決定の重要性

グループは、離れた砂漠で立ち往生しているので、安全のためにかなりの距離を移動しなければなりません。グループには、幾つかの器材を含め、限られた資源しかありませんので、生き残るためには何を持っていくか、何を置いていくかを決めなければなりません。

この演習のためには、それぞれのメンバーは、何が必須なものかと考えた優先順位リストを作ります。これらのリストから、ベストな選択肢を反映した最終的なリストを組み立てるべく協働するのです。そして、あなたがたの選択したものと、サバイバルのエキスパートが推奨するものとを比較します。討論によってメンバーがその意見を共有し、他者の意見を認めることを容易にしてくれます。この完全な演習や、月に取り残されたときの問題解決のための同様なものが、合意の達成モジュールに含まれています。

グループ活動円滑化スキル： 私たちが取り挙げている興味あるトピックとは、あなた方のクラブの発展の段階によって、どのように異なるリーダーシップのスタイルが必要になっているかということです。

クラブの営みに於いて 4 つの考え得る段階があることを知っていましたか?それは、形成、激動、規範、実行です。優れたリーダーは、これらのそれぞれの段階におけるクラブの存続と発展をどのように促進するかを知らなければなりません。クラブを良好な状態に保つための活動を盛り込んだ「円滑化 103」モジュールをご覧ください。

問題解決スキル： すべてのクラブが時には問題に直面しますが、それらを解決するための様々な方法があります。GOLD プログラムは、悪い状況に対応するための方法を提供し、どの方法が特定の問題を解決するためのベストであるかをあなた方が学ぶことを支援します。鍵となるのは、枠にとらわれずに考え、問題を、何か新しいことにチャレンジして元気になる機会と捉えることです。

課題# 3:

右の格子状に並べられた 9 つの○を見てください。あなたの課題は、これらの○を、紙から鉛筆を離さずに、できるだけ少ない直線で結ぶことです。どの○から始めても結構です。誰でも 5 本の線ではできます。何人かは 4 本の線で行うことができます。課題は、それを 3 本の線で行うことです。もしそれができれば、あなたは GOLD トレーナーとなるべき人となるのです。



モチベーションスキル： メンバーの停滞とか主要メンバーの喪失は、彼らが年齢のためや、燃え尽き症候群や、評価されていないと思うなどしてクラブを去っていく故に、私たちの多くのクラブが抱える問題なのです。あなた方のメンバーシップを活発にし、関与させ、幸せにするために取るべきステップがあります。鍵となるのは、あなた方のメンバーを支援することです。

課題# 4:

貴方のクラブが会員喪失阻止のために進めている 5 つの方法をリストしてください。

GOLD プログラムとして開発されたリストを解答欄でチェックしてください。

私たちのリストに無い新しいアイデアをお持ちですか?ぜひそれらを、共有してください!

GOLD のために努力することは、私たちすべてのものなのです。あなた方は、既存のスキルを更新し、新たなものを追加することによって、あなた方のクラブと Y サービス運動の幸福のために、貢献できるのです。

より詳細な情報入手や、GOLD 教材の注文については、以下に連絡してください。

David Hall, GOLD 2.0 国際事業主任

DavidfHall@magma.ca

教材を勉強することに興味があり、最高の (GOLDen) トレーナーになりたい方は、私に連絡してください!



課題の解答欄

#1. コミュニケーションの C

以下は、私たちのリストにある 5 つの C です:

1. 明確に、(Clear): 特に書面による説明では、明確である必要があり、論理的な順序によって整理されていなければなりません。口頭での説明は、通常、より正確さを期すために、書面による説明で補完されます。
2. 正確に (Correct): 日時、場所等の事実情報は必ず確認してください。指示を出す時には、可能な限り正確にしてください。
3. 完全に (Complete): 必要な情報が全て含まれているかを確実にするために指示を見直すようにしてください。
4. 簡潔に (Concise): 「簡略にすべき」というアプローチは、通常最善のものです。人は、必要とされる情報だけを求めていますので、もし、より以上のものを欲した場合は、その他の資料、特に書かれている書類を指示すればよいのです。
5. 対話的に (Conversational): 話すように、明確で普通の言葉で、書くようにしてください。詩的な話し方は動機づけをさせたいグループに話すときのためにとっておいてください。

#2. コミュニケーションの課題

ヒント: 全ての偶数は右側にあります。

#3. 枠の外を考える

4 つの線について: 図を回転させて、正方形ではなく菱形を示すようにします。1 つのコーナーから次のコーナーに移っていくことから始めます。(考えて、枠の外から書くようにします。)

3 つの線について: まずいくつかの変更を行います。○を大きく描き、それらを定規で繋いで Z の形を作ります。(問題解決のためには、別の視点や追加の道具が非常に有効です。)

#4. モチベーションの課題

クラブのメンバーを支援し維持するための 5 つの提言:

1. 彼らのクラブに於ける目的を達成するのに必要な財政的、物理的、人的資源を提供する。
2. クラブ内における役割についての明確な仕事の分担を確立する。
3. メンバーからのフィードバックを促し、歓迎する。
4. 学ぶ機会を提供する。
5. 個人的な支援を提供し、良くなされた職務については、それを評価する。

モチベーション 103 モジュールで、これらのゴールを如何にして達成するかを見つけましょう。

あなた方のクラブのリーダーを開発するために私たちの GOLD を使いましょう!

さらなる情報については: DavidfHall@magma.ca

米国地域が新型コロナウイルスと最前線で戦う人達を表彰

5月上旬、北大西洋区の素晴らしい勇気あるワイズメン、ワイズメネット、ワイズユース 91 名が、区が主催する「Zoom」を使った国際会議で表彰されました。これらの 91 名は、この困難な時のニューヨーク州の医師、看護師、病院スタッフ、警察官等でした。これらの英雄達が自分自身の命を危険にさらしてまでも、他人のために無私の奉仕を行ったことに対し、区のささやかな試みとして称える事を決定しました。

この会議は、世界各地の Y's リーダーが一番多く集まれる午後 8 時(NY 時間)に開始され、期待通り、全世界のリーダーを含む 125 名のメンバーが参加しました。

開会挨拶と祈祷は、デンマークのキリスト教強調国際事業主任のカール・ヘルツ・ジェンセンによって行われ、ジョース・ヴァルギス国際書記長は、このようなイベントは過去 100 年間でも初めての事だと述べました。その他の挨拶者には、次期国際会長のジェイコブ・クリステンセン(デンマーク)、直前国際会長のムン・サンボン(韓国)、国際会計のフィリップス・チェリアン(インド)、2021-22 年度国際会長のキム・サンチェ(韓国)、米国地域書記ナンシー・リビー、米国地域次期会長のシャージュ・サム、元区理事のマシュー・サムが含まれていました。

挨拶者全員が、ニューヨークの男性、女性、若者の活動を称賛し、区が直面している困難な時代を乗り越えるために連帯感を持って祈ることを表明しました。ジョース国際書記長は「私たちは、彼らが命がけであることを知りつつ、区の各クラブが防衛に参加することに立ち上がったことを誇りに思っています。」と述べました。

ニューヨーク市とその周辺にある 5 つのワイズメンズクラブ(ロングアイランド、フローラルパーク、ウエストチェスター、ニュー



Zoom 会議の参加者(一部)

ジャージー、ジャクソン・ハイツ)の各会長が、最前線で活躍したワイズメン、ワイズメネット、ワイズユース 91 人全員の名前を読み上げました。若手メンバーのハンナ・ヴァルギスがメロディーを奏でてくれましたが、陰鬱なムードに癒しを与えてくれました。

このイベントは、ジョセフ・カンジャマラ区理事がコーディネーターと司会を務めました。彼は、この状況下で立ち上がり、区独自の要望を支援してくれた YMI の指導者たちの対応を高く評価しました。区は、状況が通常の状態に収まった暁には、国際的な支援を得て、その英雄たちをさらに評価したいと望んでいます。

区は、フードバンクや市内の慈善団体を通じて、近隣の病院の医療従事者や生活困窮者約 1 万人に 2 段階に分けて食料を提供すると発表しました。

区チームによる投稿

インド：コラティ・セントラル・クラブの多彩な活動



致命的な新型コロナウイルスとの戦いの中で、ボランティア達はマスクを縫ったり、それを貧困層や勤務する公務員に寄贈したりと、多彩な活動を行って来ました。食料品キットは、約 35 日間、高速道路で当直中の警察官やトラックの運転手に食料パック 50 個と飲料水を提供したことに加え、150 世帯にも寄贈しました。また、クラブは、地域の公衆衛生運動を実施しました。

ジェイシュ・ケラマパラムビル(西インド区)の FB 投稿より

韓国:COVID-19 と戦う緊急対応基金

1月から3月にかけて、韓国は、COVID-19の急激な感染拡大に苦勞しました。まだ終息していませんが、COVID-19の感染者数は明らかに減少しています。

韓国では、大邱と慶北道は、最も大きな被害を受けた地域でした。ある時点で、感染者数は、1日に数百件に達しました。韓国は、比較的小さな国なので、1日に数百の新しい感染者数は、軽視すべきものではありませんでした。ワイズメンズクラブは、緊急の行動へと駆り立てられて、当時、最も切望されていて貴重な物資であった8,000枚のマスクを各道の保健当局に提供しました。

私たちの努力を支援するための国際事務局への訴えで、合計5,000スイスフランが迅速に提供され、ソーシャルディ



ネパール(南東アジア区)のルンビニ Y サービスクラブは、ワイズメンズ国際協会 COVID-19 緊急対応基金の 21 の助成対象の 1 つで、啓発キャンペーンを実施しました。このキャンペーンには、関連する文献の配布や、低所得者の家族や障害者への不可欠な食品や保護用品(消毒剤など)の配布が含まれます。彼らの行動は、100人以上の人々、特にロックダウン状態の影響を受ける人々の役に立ちました。



韓国地域の指導者と大邱と慶北道に発送準備の整ったマスクの積荷タンキングと自主的隔離によって引き起こされた韓国地域でのワイズメンの士気の低下を再び活性化することができました。

韓国地域の多くの区でも大邱および慶北道へのさらなる支援のため、資金調達に取り組みました。その後、大邱および慶北道は、韓国政府によって特別災害ゾーンとして指定されました。彼らは20,000スイスフランを無事に調達することができ、その寄付金は、大邱と慶北道に新たにマスクを提供するために使用されました。

韓国地域のリーダーは、ワイズメンズクラブ国際協会の他の区と地域を助けようと、国際本部に COVID-19 緊急対応基金として使用する目的で10,000スイスフランを寄付しました。そしてそれは、YMI 基金からの追加の助成金と合わせて、世界中の21プロジェクトで利用できたことを喜びをもってお知らせいたします。

キム・サンチェ韓国地域会長

香港:TST クラブメンバーの支援活動



マスクの配布する準備ができて
いる香港のワイズメンズクラブの
リーダー(左)と香港 YMCA の
ピーコンセンターで並んで待つ
ている高齢者

香港部のチムサーチョイ(TST)ワイズメンズクラブの会員は、ガブリエル・リー会長の指揮の下、野外活動がまだ許可されていて、ソーシャルディスタンスの規制が始まる前の3月28日に200人の高齢者にマスクを配布しました。その後、4月の終わりに2回目のマスクの配布をシャムスイポ地区の市の清掃員と少数民族を対象に実施しました。

ソーシャルディスタンスの規制のため、各グループや家族から4人未満の代表者がマスクをもらいに来ることができました。このイベントは、香港 YMCA の厚意と協働で、香港 YMCA のピーコンセンターの屋内で実施されました。

アンディ・フー(香港)

モルドバ:キシノウイズメンクラブがクリーンアップ作戦を指揮



セントラルパーク地域に消毒に向かうボランティア(左)と清掃と消毒が済んだ子供たちの遊び場

モルドバのキシノウイズメンクラブ、YMCA モルドバおよびキシノウのムン市役所とのパートナーシップによる国民運動「ヴォイヴォード」および新型コロナウイルスの感染拡大との闘いに参加している人々がボランティアのグループを組織して、すべての保護装備と備品を使用して、首都のセントラルパークエリアを消毒しました。

トーベ・スロス・ヴァインサーのフェイスブック投稿から

アメリカ地域:ピザで謝意を伝える



北大西洋区の3つのワイズメンズクラブ、ウエストチェスター、フローラルパーク、ロングアイランドのメンバーが(それぞれ上の写真の左から)ニューヨーク州マンハセットにあるノースショア大学病院の最前線の医療専門家にピザの食事をふるまうことで敬意を表しました。

インド:任務中に口にする軽食



クーヌール(南インド区)のワイズメンとワイズメネットは、お茶、スナック、水とマスクを保健局職員が、クーヌールバスターミナルで都市の周辺地域世帯の健康状態調査に出発する前に配布しました。

アメリカ:からだと魂のために



チボール・フォキ、元アメリカ地域会長とソキシア・フェイ、カリフォルニア州ロングビーチ YMCA スタッフは、ロングビーチの貧困層に食糧を配給するという彼らの使命を果たしました。

韓国全北区がラオスの学校を支援

YMI 韓国全北区は、ジソンウン理事のリーダーシップの下、ルアンパバーン県の全寮制学校の施設改善のためにラオスを訪れました。同校には、1年生から7年生までの生徒 749人が在籍しています。そのほとんどが孤児やひとり親の子供、少数民族の子供たちです。

子供たちが学校に通い続けるために国が米と水を提供していますが、NGO や希望者からの寄付が、散発的にしか行われていないため、平等な教育の機会を提供することが課題となっています。韓国全北区は、同国の YMCA を通じて学校の状況とニーズを聞いていたため、2019 年にはまず、より良い条件で学べるように教室を改造して学校施設を改善するボランティア活動を行いました。

現在、ボランティア活動 2 年目を迎えた韓国全北区は、ラ

オスの学校を支援しています。区では、既存のスペースをコンピュータ教室に改造し、コンピュータとプロジェクターを寄贈し、設置した全てのコンピュータのインターネット使用料を 1 年分前払いしました。これにより、生徒は、より多くの情報にアクセス出来るようになり、世界に羽ばたくことが出来るようになりました。

この他にも、生徒たちの体力づくりのために、運動器具、体操着、サッカーシューズなどを提供しました。

カンコンバシソン校長は、感謝の意を表し、「ほとんどの生徒は、中学に入ってから建設業や農業、養豚業などの下働きに就いていました。韓国全北区の支援を受けて、生徒たちにより良い未来を提供できることを嬉しく思います。」と感謝の言葉を述べました。

韓国地域事務所の投稿



改修されたパソコン教室での寄贈者と受贈者



ラオスの伝統的な儀式に参加する訪問者



学校にて少年少女サッカーチームと記念撮影

韓国:老夫婦用の「愛の家」

韓国地域順天パルマクラブのプロジェクトとして、韓国南部のジウムン村に約 2,500 万ウォン(約 25,500USドル)の費用をかけて、障がい者夫婦のための家が建設されました。

夫婦が住んでいたのは、朝鮮戦争の頃の廃棄された材木や段ボールで建てられた今にも壊れそうな家でした。その家は、不格好で危険だけでなくまともなトイレすらありませんでした。

新しい家を建てるために、まず整地などの基本的な作業を

行い、鉄骨を建ててプレハブパネルを取り付けました。その後、電気や窓枠、壁紙などの内装工事を行い、暖かい家が完成しました。

順天パルマクラブだけでなく、順天三山クラブ、南山クラブ、白雲クラブの会員たちの愛情と努力のお陰で、高齢者たちは喜び、感謝の気持ちで一杯になりました。

ジュ・ゴンギョ順天パルマクラブ会長



(左)老夫婦が住んでいた今にも倒れそうな家。(右)新しい家(後ろ)と支援クラブのメンバー

タイ:緑の基金で地域を緑化

タイ北部のチェンライ県クンラオ村では、分水嶺地域として守るために森の保全活動が行われています。こちらでは、大きな木の下で茶やオーガニックコーヒーを栽培しており、皆で森の保全に協力しています。ここは、人々が訪れる美しい場所であり、観光客が自然に感謝し、地元の人々との交流や美しい文化に感謝しながらホームステイを楽しむエコツーリズムの目的地でもあります。

サオヒン YMCA は 2002 年から村や学校と協力して、環境保全プログラムの教育と村民の支援を行う活動をしています。森を守る活動に対して村人にインスピレーションと感謝の気持ちを伝えるためにワイズメンズクラブ国際協会は、「緑の基金」を通じて村の照明を LED にアップグレードすることを支援しました。この基金によって、55 世帯の照明を各家庭に

2つの LED ランプにアップグレードし、また、他の世帯のモデルとなりました。村は、電力消費による二酸化炭素排出量の削減と気候変動の影響に対する自分たちの役割をよく理解し、意識するようになりました。彼らは、エネルギーを効率的に使用し、環境を保護し、自然と調和した生活を続け、世界をより緑豊かなものにして行くことを決意しています。このプロジェクトを支援するために「二酸化炭素排出削減」環境助成金を提供してくれたワイズメンズクラブ国際協会に感謝致します。

YMI の二酸化炭素排出削減環境助成金の詳細は <https://www.ysmen.org/our-work/environment> を参照下さい。

サオヒン YMCA パトチャリン・アビファン



(左から右へ) 気候変動とそれを緩和するために何が出来るかについて説明を受ける村人たち。実行可能なオプションのデモンストレーション。新しい LED ランプを手にする村人たち。

ブラジル:サンパウロ・ワイズメンズクラブが運営する「連帯市場」

私たちの連帯市場計画は、Leide das Neves Jabaquara YMCA を助けたいという思いから生まれました。私たちは、子供やティーンエイジャーの必要を満たすために、米、豆、砂糖、コーヒーなどの基本的な品を提供することから始めました。現在、Leide das Neves Jabaquara YMCA と近隣のコミュニティーが支援する 130 世帯をモニターし、一度に 15 日間必要な必需品を提供しています。

私たちのキャンペーンは人気を博し、同様のことをしていた他の人たちも私たちの連帯市場が、より多くの人たちを助ける機会であることを知りました。また、警察官、消防士、近所の人たちの支持を得て、今では 1 トン以上の食料品を備蓄して、必要な家庭に配ることができています。

ロブソン・パイレス サンパウロ・ジャバクアラ
ワイズメンズクラブ会長



連帯市場内の豊富な在庫のある店にてクラブ会員たち



分配する食料品を詰めるボランティアたち

月時点の 3,000 件から 4 月には約 20,000 件に拡大され、広範囲な検査と迅速な診断、蔓延の抑制が可能になりました。

診断結果が陽性の場合、国と地方自治体の連携により、迅速な疫学調査で感染源を追跡し、感染者を最長拘束期間(14日間)隔離し、マンツーマン管理を課しています。海外渡航歴を医療機関に提供して迅速に情報を共有し、総務安全保障省と地方自治体が徹底して対応し、感染拡大を最小限に抑えます。

その後、フォローアップとして、疾病予防管理センターのウェブサイトにて情報を公開し、保健担当者が携帯電話のテキストメッセージで詳細な情報を知らせています。

また、ほとんどの市民は、フェイスマスクの着用、手洗い、自己隔離やソーシャル・ディスタンスの遵守など、政府のガイドラインをよく守っています。

大部分の建物の入り口には、体温測定装置が設置され、手指用消毒液が置かれて、定期的に消毒も行われています。

慶尚北道・大邱市が COVID-19 の感染拡大の中心であった時、全国の多くの医療関係者がボランティアとして働き、感染を封じ込め、あらゆる地位・職業の人々が、



訪問者にとって安全となるよう、公共スペースを消毒する、
コロナウイルス最前線のウォリヤー(戦士)たち。

マスクや日用品、食料などを提供して、患者と医療関係者に癒しを与えました。政府は、マスクの配布もシステム化しました。

多面的な努力により、韓国は、COVID-19 の脅威の最悪の事態を乗り越えることができました。

最前線の勤勉な医療スタッフと保健担当者を忘れずに、COVID-19 を完全に克服する日まで、個人の衛生管理とソーシャル・ディスタンスを保たなければなりません。

日本 -92年間を駆け足で振り返って-(9 ページより)

YMCA の働きを報告、振り返ることでした。この大会も東西日本区、仙台 YMCA の協働によって成功裡に開催することができました。

100 周年、25 周年に向けて

ワイズメンズクラブ国際協会設立 100 周年の 2022 年は、東日本区、西日本区にとっては、設立 25 周年に当たります。2020 年 2 月現在で、東日本区は、クラブ数 61、会員数 875、西日本区は、クラブ数 80、会員数 1,474 です。近年、会員数が減少傾向にあり、また、会員の高齢化も進んでいます。現在、東日本区では「Change! 2022 運動」、西日本区では「新生ワイズ起こし運動」として、会員増強を中心とした取り組みを進めています。残念ながら今は、新型コロナウイルスの感染防止のため、ワイズ活動が全



仙台アジア太平洋地域大会での被災地訪問(大川小学校)

般的に制約を受けていますが、力を合せてこれを乗り越え、これらの運動によって日本のワイズが一層元気になり、YMCA と地域社会に対してより良いサービスを提供していくことができることが期待されています。

地球規模で都市封鎖が実施されることによって、多くのクラブメンバーが創造的になりました。一方、最前線で戦う戦士のように自らの責任を果たすために活動するメンバーもいました。ペンやペンキや絵の具の筆を取るメンバーもいれば、音楽を演奏したり、歌を歌ったりしたメンバーもいました。また初めて料理に挑戦したメンバーもいました。ソーシャルメディアは、クラブのメンバーが都市封鎖の期間をどのように最大限に活用したのかという実例を大々的に伝えていました。ここでは新型コロナウイルス感染症に触発された行動に関する記事を共有することによって、他のメンバーにやる気を起こしていただこうと思います。—編集長

む 無

キリスト教会のドアは閉じられ、仏教寺院の鐘は鳴ることを止め、高くそびえるイスラム教寺院の尖塔からは招来する鐘の音は聞こえてこない。それは、単なる別のウイルスに過ぎないよと鳩たちがクークーと鳴く、鳩たちは間もなく自らの信仰の為に戦おうと戻ってくるだろう。

酔っ払いが人事不省に陥ることは無く、金持ちが安眠することは無い。兵士には戦うべき敵が無く、死者を嘆く者は無い。出稼ぎ労働者には住む家が無く、商人には行き先が無い目に見え無い鞭によって全てが沈黙し、押し黙っている。

人気の無い通り、工場の煙突から立ち上る煙は無い、働く手は止まり、心は空虚である。飛行機は地上に留まり、自動車のエンジンは動かない。我々が住むこの世界で、我々は万物の所有者であると考えている。

今イルカ達は、国と国を繋ぐ海洋交通路を回遊している、一方、鯨達は、炎の上がっていない石油掘削装置にぶつかる。象達は静かな森の道を軽快に歩き回る。しかし、間も無く我々は忙し無い生存競争に戻って来るだろう。

鋤が使われることは無く、収穫物は畑で腐敗している。投資家の巧妙なやり口により、食料はネット注文で配達される、他人の土地を奪い取る者達は、今その富にかまけて静けさの中に身を潜めている。衛星達は全ての軌道に群がり、星達はその場に留まる。若者達は、自分の携帯電話にのめり込んでいる。テレビの総合司会者は口がもつれ、政治家は黙して語らない。彼らの発する雑音は、巨大な暗黒の無に積み上げられる。

蝶々や蝙蝠達は荒れた庭で宙返りする。動物園のライオン達は、うろたえながら与えられた刑に服している。我々が「開発した」鳥達の生息地であった場所に今、鳥達が戻っている。不況の中、漁船は港に錨を下ろす。

銃や情報を持っているにも拘らず、我々は吸い込む空気を恐れる。大手製薬会社も今や巷のヤブ医者とは大差無い。権力を持つ大国は、混乱し弱体化している、このような人類の状況の進展は、今や有り難い事に薄ら寒い。

しかしこの荒涼とした状況の中で我々は、思いやりと癒しを見出す。病人に寄り添う手、また正に我々のような一介の支援者。警察に対して抗議をする者、飢えた人達への食料の供給。これらの思いやりの心を通じて、我々は無の向こうに希望の光を見出す。

ダントーマス
バンガロールワイズメンズクラブ書記



最前線の戦士：国際ユース代表のシェリン・ウィルソンは、現地レポーターとしてケララの視聴者に最新ニュースを届けるという自分の任務の為に歩き回った。



孤独な芸術家：無名の芸術家が韓国大邱市の公共の場（上）で通行人に対してソーシャルディスタンスのメッセージを自宅に持ち帰り、彼らを元気づける為に一人で絵を描いている。



路上のメッセージ：インド、コーヤンブトゥールのひとけのない道路を時折訪れる旅行者に危険なコロナウイルスに対する注意を促す路上の絵

都市封鎖時の余暇



新たな趣味: 元地域会長チャーリー・レッドモンド (アメリカ) は、インドパン (ナン、チャパティ) 作り挑戦中。奮闘の痕跡がいたる所に!



熟練の技を实践: 元国際会長アイザック・パラシカル (インド) は、退職したエンジニアで、都市封鎖の間を利用して大作業に勤しみ、キーホルダー、はぎ取り式メモパッドその他の役に立つ小物などの小型家具を作りました。この写真は、彼が製作して有効利用している小さなサイドテーブルです。



新たな規範の实践: 5月上旬に都市封鎖の規則が少し緩和されるやいなやパルヌクラブ (エストニア) のメンバー達は、長距離ウォーキングに出かけて、2メートルの距離を保ってソーシャルディスタンスを实践しながら少人数のグループで少しばかり新鮮な空気を体に取り込みました。自然に囲まれた山あいの村まで10キロのトレッキングでした。



減量: 都市封鎖に続く隔離期間の間に何キロもついたぜい肉を減らす為にセントピーターズバーグ・ワイズメンズクラブ (アメリカ) のメンバー達は、市街地で自転車レースを開催することを決めました。加えて5月中旬から公共交通機関やお店の中だけでなく、通りを歩く時も身に付ける事が義務づけられたマスクの「ファッションショー」を開催しました。



生徒と教師

私たちは、常に生徒にも教師にもなります。心を開き人生で出会う全ての人や生ずる全ての状況から学ぼうとする時、生徒になります。しかしながら私たちは、常に教師なのです。時によっては、私たちは、言葉で教えますが、意識しているか、していないかに拘らず日常生活の行動を通じて私たちは、常に教育をしているのです。

私は、長年に亘ってタイにある「ビルマの問題」という地域の小さなグループで働いてきました。私たちのグループは、多様で、キリスト教徒と仏教徒の友人達が共に働いているグループでした。私たちは、長時間労働で、その仕事は、しばしばストレスが溜まる厄介なものでした。ある日仏教徒の同僚が私の所にやって来ました。彼女が物思いに沈んでいることは見て取れたので、何を悩んでいるのだろうかかと訝りました。しばらく私たちの過密なスケジュールについて話したあと、彼女は、唐突に私に質問を投げかけたのです。「マックス、あなたはこのような仕事を何年も何年も続けておられますよね。何があなたを突き動かし続けているのですか?何故疲れきって止めないのですか?」それらの質問は、特に変わった質問でも難しい質問でもなかったのですが、そのような事について長い間考えた事がなかったので即答する事ができませんでした。しばらく頭の中で考えを巡らせていると、良い答えを考えつく前に彼女が私の代わりに答えてくれたのです。「それは、あなたのキリスト教徒としての信仰ではないのですか?」

その時、私たちが共に働いてきた長い年月を通じて、彼女がずっと私を見続けて来た事に気づいたのです。グループ内の対立に私がどのように対処したのか。ストレスが非常に高まった時に私がどのように対処したのか。ビルマの紛争地帯に居住し働いている他の同僚達から毎日とてつもない苦しみについて耳にした時、私がどのように対処したのか。意識はしていなかったのですが、キリスト教徒としての私の生活が周りの人達に教育を施していたのです。それらの授業は、私の行動の一挙手一投足次第で良い授業にも悪い授業にもなり得たのです。

同じ責任が私たち国民にもあるのです。私たちアメリカ人は、自国を「キリスト教国」と呼んでいます。私たちは、世界中の人達に見えるように、誇らしげにその旗印を高く掲げているのです。その結果、私たちの行動の一つ一つが、キリスト教徒であることの意味を私たちがどのように理解しているのかを世界に教えているのです。その事は、アメリカ国内で私たちがお互いにどのように関わるか、また私たちが深く関与し

ている地球規模の諸問題にどのように関わるかについても思慮深くなるよう奨励しているはずで。

最近ミズーリ州ファーグストンで起こった出来事は、ここアジアでも大々的に報道されました。警察官による丸腰のマイケル・ブラウンさんの射殺事件と正義を要求する抗議者に対する警察隊の対応が、今日のアメリカの人権問題に対してキリスト教徒がどのような対応を取っているかを多く物語っています。これまで合衆国は、アジアにおいて軍隊や政府が自国民に対して取った暴力的な対応策を強く非難してきました。かつては、そのような非難の言葉は、価値も力もありました。し



かし今ではそれらの非難の言葉は、単なるお題目にすぎないのです。先ごろカンボジアの首相は、ミズーリ州ファーグストンの出来事での暴力的な対応策の正当性に言及して、大企業に土地を奪い取られた事に抗議する村人に対して取った彼の暴力的な対応を正当化したのです。なぜそのような行動をしてはいけないのか?キリスト教国が暴力的な対応を取ることが許されるならなぜそれ以外の国々が同様の対応を取ってはいけないのか?

私たちが戦争を容認する文化に深々とはいまこんでいく中で、地球レベルで私たちアメリカ人がキリスト教徒の信仰をどのように解釈し実践しているかについて、私たちの行動が世界に向けて何を語っているかを意識しなければならないのです。

現在一部の人がキリスト教を、美辞麗句を並び立てているが、ふと気づいてみると暴力的な復讐を企んでいる全てのその他の宗教と全く違わない宗教であるとして拒絶していることも驚くにはあたりません。もしもキリスト教がそれらとは異なり、真に愛、哀れみ、非排他性などの物事の核心をなす価値を持つ宗教であるなら、現在の世界に蔓延している暴力に対してもっとキリスト教徒らしい対応ができて然るべきではないでしょうか。私たちアメリカ人は、世界にどんな教育を行っているのでしょうか?

「子たちよ、言葉や口先だけではなく、行いと真実をもって愛そうではありませんか。」(ヨハネの手紙一 第3章18節)

Y's Men International
YMI WORLD

"To acknowledge the duty that accompanies every right" Only for private distribution to members

クラブの指導的立場にあるメンバーは、実施した活動に関する記事を1枚以上の高解像度の写真と適切な短い説明文を付けて国際本部に送られることをお勧めします。記事は、150語(英語)以内をお願いします。読者の皆さんもグローバルな私たちの運動に関する関心事について、ご意見や原稿をお寄せ下さい。記事と写真は www.ysmen.org/yimiworld にお送り下さい。次号掲載記事の提出締切日:2020年8月31日

★マックス エディガーは、カンボジアで設立された「平和の学校」の運営責任者です。 www.mennolink.org/peace アメリカ合衆国メソナイト教会平和・正義支援ネットワーク・ネット出版、ピースサインズの許可を得て転載。



Y'S MEN INTERNATIONAL

To acknowledge the duty that
accompanies every right

ワイズメンズクラブ国際協会

強い義務感を持つ
義務はすべての権利に伴う

We are committed to
making the world a better
place by addressing its
most urgent needs.

私たちは、最も緊急に行うべき課題に取り組み、
この世界をよりよいものにすることに献身しています。
クラブに入会してください。

あなたの人生を、喜びと友情と
意義深い奉仕で充電してください

詳細は、以下をご覧ください

www.ysmen.org